

監査側の対応も考えておく

循環棚卸の意義と方法

新日本有限責任監査法人
公認会計士 渡辺 健一

企業が決算を行うためには、保有する種々の資産について決算日における残高を把握しなければならぬ。なかでも棚卸資産の残高は、数量×単価で計算されるが、この数量の測定には棚卸が用いられることになる。

棚卸資産の保管場所は通常複数あり、また、棚卸資産の種類は多いため、棚卸の実施には相当のマンパワーが必要になる。しかし、多店舗展開を行っている会社では経営効率化による少人数店舗運営や24時間営業の増加、店舗数に対する管理本部の人員不足といった背景から、決算日に一齐に棚卸を行うことが現実的に困難な状況になっている。

店舗数が多い小売業などでは、最近、このような問題を解決する方

法として、循環棚卸を採用しているケースが見受けられる。この稿では循環棚卸を採用できる環境について考察したい。

棚卸の2つの方法 (一斉棚卸と循環棚卸)

(1) 意味

棚卸資産とは、会社などが将来の生産・販売等の主たる営業のために保有している資産のことで、原材料・製品・商品・仕掛品・貯蔵品等を含む会計上の概念である。

棚卸とは、一定時点の数量を把握する作業である。棚卸は、実施方法（範囲とタイミング）により一斉棚卸と循環棚卸に分類される（図表1）。

通常は決算日における数量を把握するために棚卸が行われるため、一斉棚卸は決算日に実施されることが多く、その場合は期末日一斉棚卸と呼ばれる。また、誤解の多い点であるが、会社の業務の集中を防ぐために期末日付近の数日間で全ロケーションの棚卸を行う場合も一斉棚卸に分類され、こちらは期末日外に行う一斉棚卸と呼ばれる。

循環棚卸では、棚卸ロケーションを重要度に応じたグループに細分化し、細分

する作業である。棚卸は、実施方法（範囲とタイミング）により一斉棚卸と循環棚卸に分類される（図表1）。

（図表1）一斉棚卸と循環棚卸の意味(方法)

名称	意味(方法)
一斉棚卸	すべての対象資産を、一齐にカウントする方法
循環棚卸	事業年度を通じて定期的に、あるいは随時に一部ずつ棚卸を行って、その時点において帳簿と照査する方法

化区分に応じて実施時期を設定することになる。したがって、いくつかのグループについては、決算日以外に棚卸を実施することとなる。

(2) 目的

一斉棚卸と循環棚卸はどちらも決算日における資産の数量を把握するために行われるが、その実施方法の違いからわかるように、目的達成のためのアプローチが異なっている（図表2）。

（図表2）一斉棚卸と循環棚卸の考え方

名称	考え方(ある時点の残高へのアプローチ)
一斉棚卸	その日に実際に直接カウントを行う
循環棚卸	継続記録法による帳簿の正確性を確保することで、その日の帳簿残高から実際残高を推定する

一斉棚卸のアプローチでは、残高について直接カウントして把握する。一方の循環棚卸のアプローチでは、継続記録法による日々の帳簿記録の精度を高めることで、決算日の帳簿上の数量から実際数量を推定するというものである。

(3) 税務上の取扱い

法人税基本通達5-4-1では、「棚卸資産については各事業年度終了の時に於いて実地棚卸しをしなければならぬのであるが、法人が、